

ビデオナービズネットとは個人規模で映像関係を業務としている事業者及びそのことに関わっている者の組織です。

公式WEB <http://www.videoner-biznet.com>

📷 4月定例会のご案内

「光メディアの購入等など、ビデオについての質疑応答」

3月の定例会でも一部触れられていましたが、お客様への納品に使用する光メディア（ブルーレイ・DVD）の購入先や取扱い方について、会員内で情報交換をしたいと思います。メディアを取り巻く環境は日々変わっていますので、参考になると思います。

次回定例会は

日時 2019年4月24日（月）18時～20時

場所 日暮里サニーホール 第2会議室

〒116-0014 東京都荒川区東日暮里5-50-5

ホテルラングウッド5階 03-3807-3211

JR・京成日暮里駅より徒歩5分

いつもより1時間早いので、
お間違えのないようご注意ください！

👥 3月定例会のご報告

「質疑応答」

会員から日頃の疑問に各会員が答える質疑応答が行われました。

「ペガシスワークスについて」・「編集でやってはいけないこと」・「機材の取扱説明書の再読」・「カット割り」（以上、菅澤さん）、「4K時代のHDDからSSDへの流れ」（脇田）、「AVHCDファイルについての疑問」（松本さん）、「機材の質量増加への解決方法は？」（上河さん）、「ブルーレイ・DVD（メディア）の再生問題」（福田さん）、などさまざまな疑問・質問があげられ、各会員が答えることで、解決の助けになったようです。

また、名誉顧問の奥川さんがひさびさにお越しになり、定例会、そして2次会にも参加されました。

文責：脇田



✍️ 会員コラム

高橋さん「西湘のビデオ屋稼業」

吉岡さん「よっしーのお手伝い日記」

野上さん「ビデオマンの挑戦（4月号）」

が続きます！

（文責各筆者）

3/23 で今年度の卒園式撮影もすべて（無事に）終了した。（ ）としたのは、無傷に終わることが出来なかった部分もあってのこと。それでも結局気分はひと段落してしまっている。編集はいくつも残っているのに。3月頭の発表会と卒園式関係とで6コ。そろそろ目を覚ませ！か。

ここではそれらの卒園式のよもやまを。卒園式は各現場現場で段取りや撮影にかなりの違いが起きてくる。各園の個性もあるが一番の大きな理由はホール等とは違って、各園舎のつくりや間取りの違いによるところが大きい。

A 幼稚園さんの卒園式。そこは今春、新園舎になり、当然撮影構築も「初めて」と同じ状況。3台のカメラの配置や動線をあれこれとさぐる作業。先生に確認して、保護者の来るはずもない位置に置いたはずの1台のカメラだが、結局、保護者の「カブリ」があって結構ツライ映像に。予想（希望）と結果の違いはよくおこりうることで何度も経験済みだが、やっぱりキツイし、妥協した自分への甘さも感じる。またそこは卒園式のあとの謝恩会では、会場をホテルに移して行うので、とにかく撤収移動に慌ただしい。このように卒園式と謝恩会を離れた場所で行う際で一番気がかりになってくるのは、園児たちの気が緩み、落ち着きがなくなってくる。だから進行も騒然、撮影もばたばたとした中で行いがちになる。そして業者以外のカメラの放列もスゴクなっていく。

B 幼稚園さん。「今年は簡易ステージを設置して行いたい」と相談を受け、証書授与の立ち位置のアドバイスを行う。いつもは平で行っていたので、やはりカメラ位置等の再構築をおこなう。新たに撮れる映像あり、撮れなくなった映像あり。でもお互い相談をしながら進めていくのは、距離がますます縮まってきて良い結果につながるはず。

C 保育園さん。ここは毎年、謝恩会での会食後のプログラムがお母さま方中心によるミニ発表会風で盛り上がる。当然音響必須だが、今回はその多機能の音響装置の具合が良くない。謝恩会では原則保護者が操作していくのだが、多機能ゆえとっさのコントロールに戸惑っている。音源の調整、出力の調整等々。ここ数年気になっていたので謝恩会終了後、いよいよ先生にお尋ねする。「今後音響に絡んでいい？」と。回答は、OK～。ハムノイズもあるこの装置、発表会にも使用しているので何とか改善したい。

D 幼稚園さん。こちらは園児数が多いので謝恩会と卒園式とを二日間かけて行う。撮影準備のバタバタ感はこの幼稚園・保育園も同じだが、こちらは園の方針で、保護者のカメラは卒園式は式場エリア外からのみ。謝恩会では何と一切禁止。保護者からすれば厳しい方針だが、一言でいうとその分、卒園式でも謝恩会でも集中感が素晴らしい。特に謝恩会でのまとまり感文字通り「謝恩の会」と化してくる。もちろん、当方のビデオ撮影にも協力的で集中できる。

そんな中での今年の全卒園児による歌とダンスは、親、先生の心を震わせていった。

よっしーのお手伝い日記(7) 鉄道模型写真

アソシネット株式会社 吉岡

デジタル工房こまち

菅澤さんは若いなあ、と いつも思う。

ドローンや4Kカメラなど、ビズネットのメンバーでも、まだ躊躇している最新機器を、まるで迷いがないうように使ってる。今風に言えば「イノベーション」ってことなのだけど、実行するには勇気がいる。

それに、記録ビデオという枠も超えてる。良しと思えば、写真撮影もするし、本も作るし、ホームページも作るし、Youtube も利用する。インタビューやクロマキー撮影も行う。すごく考えが柔軟だ。

そういうこともあって、菅澤さんからのお仕事の話は、けっこう楽しみだったりするが、逆に、お金をいただく立場として、如何に振舞えるか、がんばりどころでもある。

今回、連絡が来たのが、菅澤さんの知り合いに、趣味で鉄道模型を作ってる人がいて、コンテストに出すための写真を撮りたいというのだ。

うーん、鉄道模型の写真は、撮ったことがない。花の写真は、趣味でよく撮りに行くが、同じような要領でマクロ撮影をすれば良いのだろうか？ とりあえず、参考になる鉄道模型写真を送ってもらうことにした。聞くところによると、コンテストは写真だけの審査らしいので、撮る写真は非常に重要だ。

私の中で写真撮影というと、人物は Canon、それ以外は Sigma(シグマ)になる。

Sigma のレンズは もちろん有名だが、カメラとなると超マイナーで、条件が良ければすごく綺麗に撮れるのだが、なんともクセが強すぎて、扱いにくい。Canon だったら、まあ間違いない。が、レンズや周辺機器が人物撮影に特化している。どれが正解か、悩むところだ。

2019年1月某日 準備

送ってもらった鉄道雑誌(参考写真に付箋が貼ってある)を元に、自宅でテストをしてみる。

おそらく基本は、本物っぽく撮る、ということだろう。ということは、ライティングは太陽光をシミュレーションすれば良いってことか。

太陽光は、点光源(一点からの影の硬い光)と環境光(陰になる部分も光が回っている)の複合。

試してみるが、想うような影は なかなかできないものだ。そういう目で見ると、鉄道雑誌の写真も、光が回り込んで、影が柔らかい写真になっている。これで良いのなら、と 妥協したのが、

1. ストロボを弱く天井バウンスにして、環境光を作る。
2. アンブレラで、できるだけ影が硬く出るようにして、太陽にする。

ストロボ2台による、多灯ライティングである。

最終的に、今回 持っていく機材は以下の通りにした。

カメラ : Sigma sd quattro H レンズ : 18-35mm、24-70mm、70mm マクロ、50mm、70-200mm
予備で、カメラ : Canon 1DX レンズ : 24-70mm、50mm、150mm マクロ

サイズ感が全くわからないので、目ぼしいもの 全部って感じた。

後は、ストロボ×3(Sigma 用、Canon 用それぞれ)、スタンド×2、アンブレラ×1、三脚×1
充電電池 44 本。

2019年1月28日 午後

菅澤さんとお客さんとで、軽く昼食後、お客さんの自宅へ向かう。

食卓のテーブルくらいある大きな模型で、細かく街が作られている。3年掛かりの大作だ。下手に触ると、壊しそうで怖い。ストロボも倒さないように気を付けなければ、って倒したことは一度もないが、変に気を遣う。

セッティング等のシミュレーションは してきているので、軽く調整後、すぐに撮影に入る。実際に撮ってみると、24-70mm のレンズ 1 本で対応できそうだった。カメラは Sigma を使う。

とりあえず、端から満遍なく撮っていたが、街並みの所々に、いろんな出来事を盛り込んでいることに気が付いた。

事故を処理している警察や救急隊員。工事をしている人。訓練をするレスキュー隊員。屋上に集まって何かをしている人たち。牛を世話する農夫。駅のホームで電車を待っている人や、歩いている人たち。

すべて 1/100 の、そういうフィギュアが売っていると言ってしまうと身も蓋もないが、想像しながら一つ一つ並べていると思うと、こっちまで楽しくなってくる。

撮った写真を見せていると、お客さんの方もだんだんノってきて、この角度で撮ってほしいとか、細かくフィギュアの状況を話したりしてきた。そりゃそうだ、全部に思い入れがあったんだ。

撮影は私に一任されていたが、最終的には、交差点一つ一つまで撮る感じになっていた。

「うーん、この列車、演技してないなー」は、名言として残したい。

一通り撮影が終わった。で、この模型、電車も走るが、灯りが点(つ)くらい。部屋を暗くして、灯りを全部点けてみた。何という、幻想的な夜景。

Sigma では暗部に弱いので、カメラを Canon に変えた。手持ちから、三脚へ。

撮ってみると、本物の夜の街並みみたいだった。1台ぼつんと置かれた、屋台のリヤカーに哀愁が漂う。光条が付くように、絞りを絞る。

夜景も撮り、撮影は終了。シャッターを切るときは息を止めている。終了と同時に、大きく息を吐きだし、その場に へたり込んだ。

後日

写真は、明るさや色合いを調整し、提供できる写真は 130 枚ほどになった。

半分ずつ圧縮ファイルにまとめ、自分のところのレンタルサーバにアップロードし、菅澤さんにダウンロードしてもらった。メールでは扱え切れない大きいファイルは、自分的にはこれが一番やりやすい。

あとは、コンテストがどうなるか。気になるところだ。

以上

ビデオマンの挑戦（4月号）

八王子映像ビデオマン : Isomitsu Nogami 2019.3.30

桜の花も開きウグイスの鳴き声も聞かれるここ八王子でございます。 Bizネット会員の皆様お変わりなくビジネスに励まれていることと思います。最近仕事は忙しくて鳥の声など聴く余裕もないとおっしゃられるかも知れませんが春は総ての生き物に新しい息吹を与えてくれています。 SNS で Facebook や YouTube へ季節のあれこれをアップしていますのでよろしかったら「いいね」をして下さるようお願い申し上げます。私は2つチャンネルを持っています。お友達が5,000人になったらそれ以上増やせないというFBのシステムに従い、それではということで2つ目を持ちまして発信中でございます。どちらもお友達が5,000人になりましたので今度はインサイトでも発信しております。FBさんは広告を出して欲しいらしく盛んに宣伝します。いずれ出す予定ですがまだ自分のビジネスのスタンスが決定していないため躊躇している所でございます。私の映像（スローモーション）Canon XF100 撮影。



今回は念願のプロジェクターを購入した。 どうしてプロジェクターを購入しなければならなかったのかそれを記事にしてみたいと存じます。 価格も低くなり輝度も3600lm とアップし DVD/BD を投影までと考えを広げてみました。

WiFi も別売だったけどワイヤレス接続も興味があった為購入しました。 もう少し使い込んでから実際の現場に出る必要があると思いますが正直どうなるのか不安です。 Bizネットの人達にもある程度やってみてまた質問したいと思います。 何故ならば疑問を抱いて、ソリューションを聞けるということは最も大切なことだと思います。 質問があるからBizネットは役立つのです。 あるいはよりベターな方法があるかも知れません。 これは自分の個人的な見解だけでやるよりも他の方々の良いところ実際の現場を知っている方々の意見が聞ければ一番ありがたい事です。



私の初期の海外旅行では一眼レフで写真をいっぱい取って帰国しました。 スライド用のポジフィルムは高価でしたが趣味でやっていました。 スライドは写真だけで音楽もナレーションもなく、自分で語る紙芝居みたいな物でした。 子供にも何度も見せましたのでその効果はありました(笑)



今回、プレゼンス用にプロジェクターを購入してこれを幼稚園や小学校で投影し、パフォーマンス的な語りを入れて（マイク使用）展開すれば映像制作の楽しさで児童の方々に喜んで受け入れてもらえるのではないかとアイデアです。この仕事は人次第であるところがミソです。誰もが出来る仕事ではありません。要はタレント的な人間性と子供達に楽しんでもらえるサービスセンスが求められます。案外ビズネットの人は他人を当てにしない自立した運営を成されていますので適しています。児童たちに好かれる映像や語りをスキルにして園長先生・副校長先生にアプローチ致します。メディアでプロジェクターに投影する中身も大切です。自分のこれだというのを映写し反応を見る。笑いや涙を誘えることができれば最高ですね。

具体的な機器の選定・ノートパソコンとの結線・オーディオ機器・スクリーンへの投影・マイクを利用して音響効果・メディアコンテンツの前準備も大切になります。ノウハウは大道芸人の人たちからも学ぶ事ができると思います。大道芸人は不特定多数の集まって来て見てくれて方々が感動した対価を堂々と貰っています。下記の動画は（再生回数 300 近い FB 投稿作品）彼のパフォーマンスに魅了された数字です。（三河安城デンパークにて）



彼の才能は私たちビズネットの人達と似たところがございます。後は勇気を出して、できればシナリオを書いて DM を出します。「子供たちへ視聴覚教育」の一環として私の人となり を 2 時間いくらで買ってくれませんかというアクセスです。これは高いほど効果があります。ワンステージを企画となれば 20 万円～30 万円が相場ですと。実際はそんなに貰えないと思いますけど(笑) 季節感を込め（クリスマスなど）ネタを作ってプログラムにして声を掛けます。もし幼稚園でビデオを撮ったことがあればその映像を流すことも私たちの本来の業務の延長線上で喜ばれるはずで。小学校では英語の先生もネイティブで英語教育をされています。音楽の先生は音楽会でステージを作ります。そういう方々のプレゼンスもお手伝いしますよという立場で自分を売り込むそれは立派な社会貢献だと(笑)

とかく社会は懐疑的でなんだか訳のわからない営業には相手にしてくれません。この人は悪い人じゃないかという目で見られがちです。対価は子供達の笑顔でありその映像は彼の頭脳に残り、その人の人間形成の一助とも成り得ます。どなたも「えっ、映像ってそうなの！」そんなに素晴らしい物なら是非見せて下さいとなる事を願って。



桂浜公園に立つ坂本龍馬像

つづく To be continued 野上五十満

(英語も話す誇り高い八王子映像ビデオマン)